

第2 回吉野町まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録（案）

■日時：平成27年6月17日（水）午後1時30分～午後4時00分

■場所：奈良県立吉野高等学校 吉野文庫

■出席者：第2 回吉野町まち・ひと・しごと創生推進会議 出席者名簿のとおり

1. 開 会

2. 会長挨拶

■会長挨拶：今日は第2 回目ということですので、テーマや内容も少しずつですが、具体的に進めさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

3. 案件

(1) 前回の議事録の確認

■事務局より、資料1をもとに説明。

・委員：P. 3 「・委員：吉野高校は、111年の古い学校。・・・」を「・委員：吉野高校は、113年の古い学校。・・・」に修正をお願いします。

・会長：事務局にて指摘事項の修正をお願いします。これをもって、公開対象の議事録とする。

(2) 吉野町の人口の現状分析について、吉野町の人口の将来推計について

■事務局より、資料2-1、資料2-2をもとに説明。

(3) グループワーク

■事務局より、資料3をもとに説明。3 グループに分割。

ファシリテーター：有限責任監査法人トーマツ 堀井氏

■テーマ①「人口分析結果から読み取れる課題・自分の生活実感としての課題」

■テーマ①について、各グループより発表

◎グループ①：

- ・どのような推計をしても人口は減少する。
- ・人口が減ると生活サービスの水準も低下するのは仕方ない。
- ・楽しさがないと寂しくなる。
- ・飲みに行けるところがない。飲みに行けるようなところがあれば人も集まる。
- ・子どもの教育問題、一定水準の教育を与えるためには、町にいと不便なこともあるのではないか。
- ・しんどくなったときに近くに24時間行ける病院が少ない、あっても距離があって時間がかかる。
- ・自分の車がない人にとっては、交通の便が悪く、お金を持っていても使うところがない。お金を使うところがないから、地域の産業レベルが落ちていっているのではないか。
- ・吉野では、木材がお金を作っていたが、社会的影響の中で、木材需要が減少してきた。お金を生み出す部分が少なくなっている。どこに手をつけるというよりも、全てに手をつけていかないと何ともならない。

- ・どのような人口推計を行っても人口が減少する理由がわかった。

◎グループ②：

- ・電車のある地域は可能性がある。国栖地区は、コミュニティバスはあるが、電車がない地域。
- ・交通の便が悪くなると人は出て行って帰ってこない。
- ・箸産業でも平均年齢が 64.5 歳。産業界の後継者不足も人口減少の要因。
- ・結婚して出て行く方も多いが、婚活をして人を呼ぶ。
- ・就職についても、一企業ではなく、一体感ある企業、人財の養成と定着が必要ではないか。
- ・仕事をして生活するためには、出て行かないと仕方がない実態がある。ただ、そういった方に戻ってきてもらえるようにしないと人口は減少する一方になる。どこか一つでも食い止めることで一旦は人口流出が止まる。
- ・教育の面では、幼小中高を一貫校にするということも話したことがあるが、当時できていれば人口流出を防げたのではないかとこの想いもある。あちこちに建物を建てても、人口が減るとなくなっていく。

◎グループ③：

- ・人口減少のキーワードは4 つ。交通、仕事、生活環境、教育。
- ・交通の利便性が悪い。近鉄吉野線も単線であり、車のない方にとっては、不便である。
- ・大型スーパーがないことが、若い人にとって魅力がない。
- ・吉野には、地場産業の木材、吉野山の旅館があるが、働く条件が悪い。働く時間が長いことや危険を伴う仕事、きつい仕事が多く、若い方が魅力を感じない。
- ・跡継ぎがない。
- ・生活環境については、同居の世帯が減少している。子どもには、不便なところでは生活させたくない、もっと便利なところで生活させたいと思っている保護者も多いのではないか。
- ・同じ世代が少ない。幼稚園などで母親同士の友達も少ない。都会に行って友達がほしい。共通の悩みを相談できる人がいない。
- ・教育面では、町内に進学校に行くために40人、50人いるような塾がない。町外の塾に通う子どもも多い。人口を減らさないためのキーワードは、進学。この時に大きく人口が動く。中学校から高校への進学時が人口流出の原因。次に就職、その次に結婚。
- ・進学、就職、結婚の時の人口流出を止めれば、まだまだ明るい未来がある。

■テーマ②「課題の根本原因は何か。何か解決策はないか。」

◎グループ①：

- ・今、吉野は、「木」のまちと言われているが、これからは「気」のまち、元気なまちに。
- ・健康を求めて吉野に来たくなる。
- ・吉野は、もともと自然といっしょに生活するまち。例えば、住宅も木、しっくい、土など、自然のものを使った家づくりを進めて、そこに住むと病気にならない。
- ・健康になると活発に活動し、仕事もする。各地域で食事する場所もできてくる。そこに行くと言情交換もできる。新しいネットワークができるときかけが生まれる。

- ・吉野にきたい、住みたいと思うキーワードは、「木」から「気」へ、が大事かと思う。
定住促進住宅もできると聞いているが、「住むと元気になる」このようなコンセプトの家にしてほしい。

◎グループ②：

- ・国栖に来たくなる。小学校跡地に高級ホテルか高級レストラン。
すごいシェフを呼んで、すごいものを食べさせてくれる。
すごいものとは、その場で生産した大和の野菜を使う。
- ・国栖には、箸、和紙、木工、陶芸、ガラスなどの工房があるが、食べる場所がないから1日滞在できない。食が大事。
- ・小学校跡地に桜の苗木を植える、小学校跡地からの眺めを楽しみ、自然を満喫してもらい、1日滞在してもらおう。

◎グループ③：

- ・特区。吉野町を何か特化させて、ここでしかできないものを呼び込みたい。
- ・伝統技術に特化した高校。
- ・全国から生徒を募集して、空き家を活用して、そこに住んでもらう。
流出を止めるだけでなく、外から呼び入れる。
- ・教育と企業の連携。吉野のゴルフ場に生徒を呼んで、ゴルフアカデミー。ゴルフで若い子に注目してもらおう。
- ・花嫁修業。吉野山の旅館でお茶や華などの花嫁修業をしてもらおう。

■「今日の議論を踏まえた感想、まちの目指すべき姿」について、各委員より発言。

◎委員：

- ・吉野の風土と土地の力を引き出した自然と生きるまち。
- ・吉野の気候、風土の中での生活は健康にいいと思うので、それをもっと引き出していくと若い人たちも来てくれる。
- ・人が増えさえすれば、いろんなものが回ってくる。

◎委員：

- ・地域の方たち同士、仲が良い。
- ・小さなコミュニティを大事にして、コミュニティに即した楽しい場所が国栖にも上市にもあり、小さなコミュニティがしっかりネットワークを張っていければ、良い吉野町になる。
- ・吉野の自然が好き。ゆったり流れる時間を大事に住む楽しさを発信できればと思う。

◎委員：

- ・普通の暮らしのすばらしさがしっかり伝わっていけばいいと思う。
- ・吉野町にすでにあるものが大事。あるものがつながっていけば元気になる。
- ・楽しいところに人が集まる。楽しさ、元気が重要。

◎委員：

- ・地元のことを良く考えておられるとの印象を持った。

- ・木材関連の業界、吉野山、吉野ブランドを前面に出した起爆剤がこの会議の中で一つでも二つでも出れば良いと思う。

◎委員：

- ・吉野という名前は全国に通用するもの。吉野の名前に見合う活動を学校としても展開している。
- ・数年前から、シロヤマザクラを苗から育て、吉野山に返していく桜プロジェクトを展開している。この取り組みに早稲田大学の教授が注目され、大学院生7名を連れてこられる。地域とともに歩む学校として、吉野町の吉野山の元気を吉野町の高校生が十数年前から取り組んでいることに注目してくれている。
- ・吉野町にある学校として、吉野に元気を、そして吉野高校にも元気をもらえるようにがんばっていききたい。

◎委員：

- ・吉野町には、ゴルフ場もあるし、吉野高校もあるし、自然も豊かであるし、買う土地もある。良いものがたくさんある。
- ・それらを活かしてこんなことができるというアイデアもいつも会議で出てきた事だと思う。それを一つでも二つでも、全部やらなければならないと改めて感じた。ゴルフアカデミーもやればいいし、空き家を使って生徒に住んでもらってもいいし、意見ではなくやらなければならないと感じた。それぞれが繋がって、寄り添ってやっていけば、成果も出てくると思う。
- ・町民に元気がないといけない。住民が、別に不便ではない、生活できる、楽しい、幸せと言える町でないと帰ってきてくれない。まずは、幸せ度、帰ってこられる度を上げないといけない。住民が幸せでにこにこできていないといけないと感じた。

◎委員：

- ・自分が好きで地元に住んでいて、他の地域の人に認められなければならない。
- ・外に行っても外から来ていただいても、来ていただいて喜んで帰ってもらうためには、自分たちが楽しく生活できなければならない。
- ・吉野に観光に来て、住みたいと言ってくれる人はいるが、実際に住む人はいない。まずは、住みたいと思える気分にだけでもする環境は吉野町民全員が持っていないといけない。

◎委員：

- ・グランデージがレディースゴルフ教室を始めるにあたり、本日開校式があった。
- ・連携していくことが大事。連携とは、お互いにとってプラスであること。
- ・高齢者をもっと町に迎え入れることも考えたが、町の福祉の負担が増える。
- ・スポーツクラブの会員で外から来てくれる人もいて、スポーツするにも環境が良いと言ってくれる。高齢者を呼び込むには、土地柄も良いと思うが難しい面もある。
- ・子どものスポーツ環境を守ってあげないといけない。そのために近隣を巻き込んでいく必要があり、行政との連携が必要である。

◎委員：

- ・昔から木材業界だけで吉野町を盛り上げようという試みがいくつかあった。
- ・やはり木だけではむずかしく、こういう場所に来て吉野町ひとまとめになって皆さんとがんばれることは、良い案も出てくるし、助け合いもできる。

・木だけでは力不足な部分もあるが、吉野という名前ですいろいろがんばりたい。

◎委員：

- ・吉野町に望みたいことは産業の活性、雇用のある町、楽しい町、活力のある町。
- ・割り箸が好きで産業を絶対に費やしてはいけないと思っている。
- ・国栖の里観光協会や国栖の里ほりおこし会で様々な活動をしているが、自分が楽しめないと吉野町にいられない。皆さんと良いまちにできるように努力していきたい。

◎委員：

- ・昔商工会に所属していたが、自分たちの想いでいろいろやることができた時期があった。自分に時間の余裕もあり、吉野町をよくするために参画できた。
- ・その時期はやればやって楽しく、またやろうというのがみんなの声だった。そんなことはやめとこうという人はいなかった。今は、声を出す人も少なくなり、声を出してもやめとこうと否定的なことを言われることも多い。
- ・家族を守っていくために仕事をするという中でそういう機会が減ってきた。
- ・楽しい町で来たくなる町で住みたくなくて皆が仲良くできれば一番良い。
- ・一人若い人が国栖の里で木工をやりたいと言っている。ぜひとも国栖に住ませてやりたい、住んでほしいと思っている。その子が住んでくれることで、また誰かが来てくれるのではないか。
- ・今一番の目標は、その子が住んでもらえる場所を探すこと。
- ・空き家はたくさんあるが、いろんな条件や制約があって進まない。
- ・他の町村には、特産品がなかなかない。吉野にはブランドがあって、他の町村に比べてすごいところだと思う。それをこれからどう活かしていくかが課題。
- ・最近行政の人との距離が近くなってきた。町民の意見が反映しやすいのではないかとと思っている。
- ・会議の時間は、日中だと参加しづらい。どうしても日中になると思いますが、より多くの皆さんの意見を聞くためにも夕方や夜の会議の機会も設けていただければと思う。

◎会長：

- ・全国のいろんな場所でアンケートを実施すると居場所がほしいという声がある。行政が居場所を作って、行政が管理してもうまくいかない。ほしいと言う方が主体性を持って運営する、居場所を作らないとうまくいかない。
- ・地域医療については強い関心がある。教育環境、交通の便、収益性の高い仕事に就ける、業界の低迷など、他の市町村においても話合われている。
- ・後継者不足はどこでも言われている。本来は続けていけるのに、後継者が見当たらないので廃業するケースもある。この状況がこの町の中でどのようになっているかは調べなければならない。
- ・子育てについて相談できる環境については、0歳から100歳までコミュニケーションできるコミュニティを作ろうと言っている。五感六育。子育てだけでなく、いろんなことを相談できる体制を作る必要があると話を聞いて感じた。
- ・その町の主産業を強くしない限りは、実績に繋がってこない、効果が現れない。この町の主産業は何なのか。
- ・基幹産業と連携、関連付けられる産業は何か。各地域の個性を出していきたいところがあるので、それに応じた会社を起こす、業を起こすことが必要になってくる。企業誘致は一番最後の話。地元企業、産業界をどのように強くしていくかが求められている。

- ・部分個別の最も良い状態、最適化は大事ですが、まち全体を最適化していくためにはどうするか。主産業における人財を養成していく必要がある。業界全体の人財のあり方をもう一度考え、まちづくりの人財養成プログラムを作っていかなければならない。
- ・文化が大事。吉野の文化は何か。もう一度考えて、情報共有と役割分担と事業構想をかけていかなければいけないと話をして聞いた。
- ・吉野のライフスタイルとは何か。この町で住んだからこそ味わえるライフスタイルとは何か。ここに住んでいて良かった、子どもたちにここで住んでほしいというライフスタイルは何か。そこで作った商品は、どのようなメッセージを発するか。こだわるが、キャッチコピーを皆さんと一緒に考えていきたい。一体感をもってやっていかなければならないと感じた。第3回目以降で細かい話を皆さんと詰めていければと思う。

■案件（3）グループワークまとめ

◎会長：皆さんが話し合われた中でいろんな問題とか、こうした方が良いとか、案も出された。現状課題を解決していくためにワーキンググループを作って、その中で議論していく。具体的に詰めていったものを推進会議で報告する。そのようなことが大事。ワーキンググループを作って、話合われて出てきた提案を進めていく。より確実なものにしていくためにワーキンググループを設置してはどうか。

◎委員：

- ・活動できる場所がある。
- ・文庫の中にカフェスペースを作って、場所ができた。
- ・まちの人の力、お母さんの力が大きいと感じた。もっとそれをつなげていきたい。
- ・文庫では受け皿として小さい。受け皿として、法人化など違う形にして、違う広がりを作りたい。
- ・赤ちゃんからお年寄りまで集える場所になればと思う。

◎委員：

- ・基幹産業の木材をやっている中で時代も変わってきている。
- ・日本中で使われていた時代は昭和20年、30年頃。何もPRしなくても、日本中の大工が良い木だと分かって、使ってくれていた。生産者は作る方に一生懸命なれていた。
- ・住宅も代わり、人口も減り、一軒あたりに使えるお金も減ってきた。
- ・吉野の自然に囲まれたライフスタイルが、他の地域の人が実感できない。
- ・木をPRする時は、住環境、健康も含めて、吉野の木を使ったライフスタイルをPRしていければと思っている。この点をワーキンググループで考えていければと思う。

◎委員：

- ・国栖の里では小学校の跡地問題がある。結論を出さないといけない時期に入ってきていると思う。
- ・何かできることを進めていかないといつまでたってもあのままになる。国栖地域皆の思っているところ。
- ・最終的に更地になるかもしれないが、今手を打っていかなければならない。
- ・国栖のものづくり、日本の美しい村連合というところで変化を見せていかなければいけない。
- ・何か手をつけていかなければいけないと感じている。

◎委員：

- ・個でできることと、団体としてしなければならないことがある。
- ・皆さんに教えていただきながら、やっていきたい。
- ・自分の工場の経営とあわせて、観光協会に入っている方もいる。

◎委員：

- ・以前から会議で話し合いをさせていただくが、話し合いで終わることが多い。実行までいかない。
- ・皆さんと出会ったので、行政も本気になったのかなと思っている。
- ・話をするだけではなく、小さなことでも実行に移せればと思い、出席している。

◎委員：

- ・ワーキンググループでの話し合いについて、具体的にどのようなグループでどのようなことを話し合うのか。

◎会長：

- ・それぞれが主体でやってみたいという意向をお聞きして進める。
- ・そこにいくつかのワーキンググループができれば、その中に委員の皆さんと一緒にやりたいことなどの意向を聞く。
- ・推進会議では数も限られているので、ワーキンググループの中で動かして、考えてきたことを推進会議の中で発表していただく。
- ・ワーキンググループの中で、自分たちでできること、行政にお願いすることなども議論していく。
- ・主体がなければ進まないの、自分たちも関わるが、皆さんに協力してもらうことなど、そのワーキンググループの中で議論していただければと思っている。

◎委員：

- ・会長が言われた後継者について、商工会の会員データから調べてきた。
- ・個人事業主が 379 名。法人が 113。親子で事業を行っており、後継者がいる事業は 84 事業所しかない。既に事業継承している会員は除いている。
- ・そこも大事だと思うので、ワーキンググループを作って、どういう対策をしていけば良いのか考えたい。
- ・個人事業主でこれから残っていくのか、なくなっていくのかという業種もあるかもしれないが、そのあたりも話し合っていければ良いと思う。

◎委員：

- ・NPO か法人か個人かで違うが、女性の起業には奈良県の補助金や制度がある。
- ・具体的な話があるときに、いろんな情報収集をしてお役に立てればと思っている。

◎委員：

- ・普段、小学校や幼稚園、老人施設などで活動している。
- ・メンバーのほとんどが日中は仕事をしている。夜練習をして、行ける人で日中の活動をしている。
- ・具体的にどういう関わり方ができるか。今のスタイルで、今は十分。
- ・ただ、いろんな楽しい話が出たので、喜んでもらえるお話を届けたい。
- ・吉野に住んでいながら吉野のことを知らない方たちにこんな話もあるということを伝えていくことが、自分たちのやりたいこと。そういうところでワーキングに参加できれば良い。自分たちの活動に見合ったところはそういうところ。

◎委員：

- ・スポーツがテーマになってくる。
- ・とくに、子どものスポーツ。ゴルフの話も出ていたが、そういった部分も含めて取り組みたい。
- ・昨年から、県のモデル事業として、スポーツクラブと中学校の連携をしている。
昨年から3年間、吉野町、桜井市、生駒市がモデル。
- ・桜井市と生駒市は、スポーツクラブとその地域の連携をしているが、吉野町の場合、子どもの人数も減ってきているので、周りの地域を巻き込んでいかなければやっていけない。昨年、3町6村全ての教育委員会、中学校を回って、いっしょにやろうと呼びかけた。昨年のクリスマスに4百数十名が集まって、カーニバルを実施した。
- ・子どもがやりたいスポーツをできる環境とは何か、どうすればできるかということを考えていきたい。
- ・ゴルフアカデミーを含めて、スポーツだけではなく、スポーツと勉強も含めた何かを考えていければと思う。

◎委員：

- ・異業種交流。スポーツに力を入れている方、材木を扱われる方、旅館の方、工務店の方、学校の先生、銀行の方、女性中心のグループの方がいる。
- ・人口が減っても儲かれば良いが、儲かるためには人口が増えた方が良い。
- ・箸や和紙のことは知っていたり、旅館に利用させていただいたりしているが、木は持ち運びもできないので、交流がない。
- ・ビジターズビューローで全体をPRすることで、吉野の木で家を建ててみよう、吉野町の工務店に建ててもらおうという流れで儲かるしくみが作れないか。
- ・お金が回る異業種交流のシステム。

◎会長：

- ・委員の意見を踏まえて、以下5つのテーマを中心としたワーキンググループを設置する。
- ・発案された方とそれ以外の委員が各ワーキンググループの委員として活動する。
- ・各委員が、どのワーキングに所属するかは、今後調整する。
- ・発案者、またはそこに属する委員の方、どなたかが代表になる。
- ・推進会議のメンバーで不足する場合は、協議の上、協力者にワーキンググループに入ってもらおう。
- ・推進会議とは別にワーキングの中で議論し、推進会議の中で状況報告する。
- ・個々のワーキング開催時、可能な範囲で会長も出席し、アドバイスや相談をする。
- ・議論をして冊子を作るだけでは意味がない。まちのことですので、具体的に一つでも二つでも展開していく。
- ・協力体制を取りながら、ワーキングは個々で動くだけでなく、一緒にやれることもある。推進会議の中で発表する中で、ワーキング間で一緒にできることも詰めていく。
 - ①木の子文庫の居場所を含めた女性グループ
 - ②基幹産業である木材関連を振興するためのグループ
 - ③国栖の里を振興していくためのグループ
 - ④個人事業主、基幹産業の後継者養成グループ（異業種交流での事業構想含む）
 - ⑤次世代の子どもの育成を見据えたスポーツを振興していくためのグループ

◎事務局：

- ・5つのワーキングが作られようとしており、早速事業を展開するのか、もう少し話を固めていくのか

によるが、行政の方も担当課があるので、ワーキンググループの中でいっしょにやらせていただくつもりなので、よろしく願いしたい。

- ・ 職員の力で足りない部分は地域おこし協力隊の力も借りていきたい。新たに募集することも検討する。

◎会長：

- ・ 6月23日、24日に町長とこれから支援やアドバイスをいただく経済産業省、国土交通省、厚生労働省、観光庁に訪問し、進捗状況を報告し、協力体制を取っていただけるよう話をしに行く。
- ・ ワーキンググループや推進会議の中で話したことを、より具体化していくために、あらゆる関係機関にご協力いただくことを考えている。

(4) その他

■その他連絡事項等

◎第13回おはなしカーニバル in 吉野ご案内

◎木の子文庫イベントご案内

◎花火大会、灯籠流しご案内

◎文様割り箸のご紹介

◎会長：

- ・ 今取り組んでいることを情報共有することも大事。
- ・ いっしょにやれることも考えられる。貴重な時間を使わせていただいているので、有意義にしたい。

◎事務局：

・ 次回の日程、場所について

・ 会長の日程を優先させていただいて、日時について第1回会議でご案内とおりの。

・ 次回開催日時 7月15日(水) 午後1時30分～

・ 場所は、事務所等使ってほしいところがあれば、教えていただきたい。

場所が変われば意見が変わることもあると思う。なければ吉野町中央公民館でさせていただく。

→意見ないため、事務局で調整することとする。

・ 委員報酬の振り込み先口座をFAX等で報告をお願いする。

◎会長：

- ・ 次回会議まで1ヶ月あるので、ワーキンググループで進められる部分は進めていただきたい。
- ・ 進捗を次回会議で報告していただく。